



第2号

2019（平成31）年2月27日発行

編集・発行：高崎市立中央図書館

〒370-0829 高崎市高松町5-28

T E L 027-322-7919

F A X 027-324-3423

<https://lib.city.takasaki.gunma.jp/>

～高崎市立中央図書館のお知らせ～



図書館では、購入や寄贈などによって、本の受入れをしています。

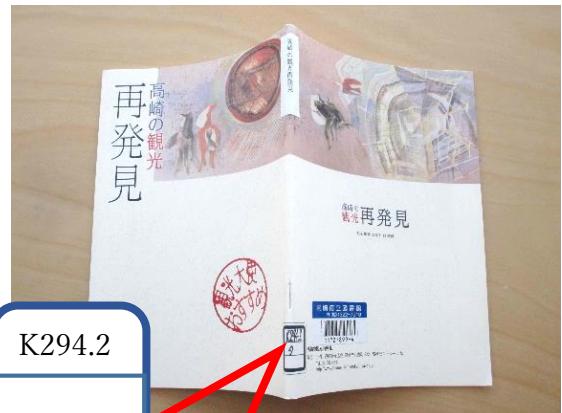
今回は、本が図書館の資料となるまでの作業をご紹介！

図書館の資料はデータで管理されています。本のタイトル、著者名、出版社、発行日、大きさ、ページ数など、1冊の本から情報を拾いコンピューターに入力します。

～図書館の本には住所がある？～

図書館では日本十進分類法に基づいて、本を分類しています。そのため、歴史の本、料理の本、小説など、分野ごとに分かれて棚に並んでいます。

群馬県に関する資料は、群馬県郷土資料分類法を使用しています。



K294.2

ここに注目！
上段の数字が分類番号です。
この数字の順に資料は並んでいます。

データの登録ができたら、次は装備をします。

本を触ってみると、ツルツルとしていませんか？本を長くたくさんの方に利用していただけるように、専用のシートを貼り、コーティングしています。



このような過程を経て本は図書館資料となり、皆様のもとへと貸出されていきます。

～なぜ自動貸出機に置くだけで貸出ができるのか？～

図書館の資料にはICタグ（電波を受けて動く小型の電子装置）を装着しています。これによって、1冊ごとにバーコードを読まなくても、貸出や返却ができます。



はじまりの 春はる

春は進学や就職など新しい生活を始める人の多い季節です。

暖かくなり花が咲き始めると、お出かけが楽しくなる季節でもありますね。

この春、新しいことを始めようとしている人、春を楽しむ計画を立てている人へ、こんな作品はいかがですか？



『一年生になるんだもん』

角野栄子 著 文化出版局

春といえば入学式の季節。

この絵本の主人公さっちゃんは4月に1年生になります。さっちゃんの小学校に入学するまでの準備の様子が描かれています。入学までのドキドキとワクワクをさっちゃんと一緒に感じてみてください。

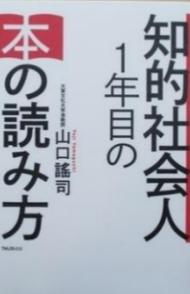


『知的社會人1年目の本の読み方』

山口謠司 著 フォレスト出版
知性・教養・創造力に富む知的社會人に成長するための読書の秘訣が満載！

本の選び方をはじめ、読解力が高まる精読術、問題を解決するための知識の深掘り術など……

読書でスキルアップしませんか。



『ゆっくりたのしむ山歩き』

古谷聰紀 著 永岡書店

はじめて山歩きに興味を持った方から、山小屋利用の登山に行きたい方も手に取れる本。準備や計画、歩き方、安全対策のほか、おいしい野外料理レシピなど、山を楽しむためのアイデアも紹介します。

この本と一緒に、楽しく安全に山歩きをはじめてみませんか。



『十億人の足跡 高崎駅百年史』

朝雲久兒臣 編 風土記出版委員会

通学や通勤で多くの人に利用される高崎駅は、1884（明治17）年5月1日に開業しました。これから利用する人も、普段から利用している人も、100年を超える高崎駅の歴史を紐解いてみませんか？



『花めぐり』

上毛新聞社出版メディア局

群馬の花の名所を、地域ごとにご案内。花の季節からも探せる「花めぐりの索引」もありますので、花の見頃などからも名所を探せます。自然豊かな群馬の春をお楽しみください。



DVD『イエスマン“YES”は人生のパスワード』

[監督]ペイトン・リード

[出演]ジム・キャリー ゾーイ・デシャネル ブラッドリー・クーパー

いろんな事に対して常に「ノー」と答え、後ろむきに生きてきたカール。彼は、人生を変えたいと決心し、「すべてのことに YES と言う」というルールを作った。

笑いあり、涙ありのハッピーエンターテイメント。

新生活を始める方、人生を変えたいと思っている方にオススメの映画です。

CD『ポジティブ・シンキング』

[音楽]広橋真紀子

[監修]浮世満理子（メンタルトレーナー）

「自分に自信が持てない」「実力が発揮できない」……前向きになれない自分の“ポジティブ・スイッチ”をONにするためのメンタル・トレーニングCDです。

ストレス社会を乗りきるための一枚です。

春に想う

21階建ての現市役所は、1998（平成10）年5月6日に開庁しました。この市庁舎もすでに20年が経ち、旧庁舎からの引越しも遠い昔のことと思えてしまいます。

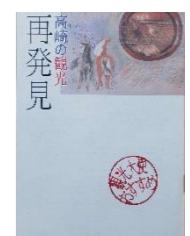
現庁舎になるまでにはいくつかの変遷がありました。

1900（明治33）年の市制施行時、市役所は宮元町の現スカイビルのところにあり、1911（明治44）年に2階建て木造庁舎として改築されました。しかし、この建物は戦災をまぬがれたにも関わらず、1947（昭和22）年2月22日に火災で焼失してしまい、本町の公会堂を仮庁舎としていました。その仮庁舎も1950（昭和25）に火災に遭ったため、新庁舎建設へと動き出します。

新庁舎は1954（昭和29）年4月に、高松町の旧連隊跡地（現在のもてなし広場）に新築移転され、1998（平成10）年までの44年間使われました。この市庁舎の2階ロビーには箕郷町出身の画家山口薰の壁画「朝暁晚」がありました。現在では高崎シティギャラリー1階に移設し、展示されています。（市史担当）

『高崎の観光再発見』 高崎観光協会

高崎という地名の由来となったお寺や、伝説のロックバンドのはじまりの地など、幅広く高崎の名所が紹介されています。身近な場所の知らなかった魅力を、この春再発見してみてはいかがでしょうか。



図書館

今昔〈第2回〉

(前号より続く)

幻の行在所といわれた「春靄館(しゅんあいかん)」が初代図書館となりました。そして約50年間利用された後、1934(昭和9)年に解体され、部材の一部は高崎公園内に建てられた武徳殿の用材とされました。

2代目の図書館は、1935(昭和10)年にはほぼ同じ場所に建てられました。この場所は、本町と成田町にまたがり、図書館や公会堂、後には中央公民館、婦人会館などが置かれ、文教地区として、様々な文化団体や社会活動の拠点となりました。

この図書館は、既存施設の再利用ではなく、当初から図書館を想定して設計、施工されたもので、利用者は初代図書館が年間4万5千人だったものが、開業後の1938(昭和13)年には18万人を超えるまで増加しました。

しかし軍国主義化が進み、1936(昭和11)年の2・26事件、1937(昭和12)年には盧溝橋事件から日中戦争が勃発、そして1941(昭和16)年には真珠湾攻撃を皮切りに日本は太平洋戦争に突入していきます。

戦況が悪化し本土空襲が危惧されると、中央官庁の地方疎開が始まります。高崎にも1944(昭和19)年に東京鉱山監督局が疎開、図書館がその庁舎に充てられました。

このため、図書館は一時的に寄合町の高崎中央通り教会(現在の救世軍高崎小隊)へ移転、更に終戦後の1946(昭和21)年には高崎公園内の武徳殿に再移転しました。

戦前・戦中・戦後の激動期に、仮住まいながらも市民への資料提供を続け、1948(昭和23)年に、やつと元の成田町の建物に戻ることが出来たのです。

2代目の図書館は、1965(昭和40)年に高松町に3代目の図書館が建設されるまで、30年に亘り利用されました。

なお、現在鞘町に復活した喫茶「あすなろ」は1957(昭和32)年に本町で開業しました。図書館の利用者も読書や名曲に親しんだものと思われます。(第3回へつづく)

著・高崎市立中央図書館長



2代目の図書館(昭和10年)

2019(平成31)年4月1日

高崎市立図書館は100周年を迎えます。

1910(明治43)年に私立高崎図書館として開設、その後高崎市に寄贈され1919(大正8)年より市立の高崎図書館となりました。

今年は市立図書館となってから100周年にあたります。

これを記念して、下記の通り図書館の歴史を振り返る展示を行います。

期間 2019年3月28日(木)~5月28日(火)

場所 中央図書館 5階展示コーナー

中央図書館

開館時間

火曜~金曜 10時~20時

土日祝日・月曜 10時~17時

休館日

毎月最終水曜日

※ 4月10日~16日は

春の整理休館のため休館

